

あなべこうづせんかんれんいせき
おだわらしなんばー271いせき

穴部国府津線関連遺跡
(小田原市No.271遺跡)

(小田原市No.271遺跡)

調査期間 20080617～20080815

所在地 小田原市下堀地区

時代 中世



作成日:20080825

概要

本調査は、神奈川県県土木整備部小田原土木事務所による、都市計画道路穴部国府津線街路事業に伴う事前調査として行っています。今年度は小田原市下堀地区に所在する小田原市No.271において発掘調査を実施しています。

遺跡は、小田原市の中央部、JR 鴨宮駅の北方約 1.7km に所在し、市域の中央部を流れる酒匂川左岸に広がる低地に立地します。

遺跡の南側には、中世土豪の館跡とされる「下堀方形居館(しもぼりほうけいきよかん)」があります。ここは甲州武田氏の家臣であった志村氏が、武田氏滅亡後、小田原北条氏に下った際に下賜された土地であると伝えられています。

平成 19 年度に行われた調査では、居館の外周を廻る 2 本の堀が見つかっています。そのほか発見された掘立柱建物址、井戸址、溝状遺構などは今回の調査区でも確認されており、これらは居館を取り巻く付属(関連)施設であったことが考えられます。遺構群は居館と同様となる南北の主軸方位を取り、当地域が計画的に開発されていた事を物語っています。

遺跡からは鎌倉・室町期(中世)の陶磁器片も出土しています。その中には当時希少品であった船載品の青磁(せいじ)や白磁(はくじ)も見られます。調査結果から、戦国時代



▲調査状況



▲調査区全景

における北条氏支配以前にも、この地域に有力な勢力があったことが伺われます。



▲掘立柱建物跡